

内科認定医と医学文献の関わり

日本内科学会認定内科医の病歴要約作成に必要な文献

竹内法広¹⁾、平嶋登志雄²⁾

¹⁾千葉徳洲会病院病歴科、²⁾千葉徳洲会病院顧問

1．病歴要約の文献の必要性

当院は厚生労働省臨床研修指定病院である。研修医の研修はもとより医師も専門的な医療の質の向上のため積極的に認定医制度に参加している。

例えば、内科認定医制度は医師が関わった患者の症例報告が計 18 例必要であり E B M からの症例報告となる。内科分野 12 例、外科転科もしくは外科担当症例 3 例、救急 2 例、剖検 1 例である。

認定の症例報告は病歴要約の書式に従い報告する。医学文献は専門的な症例報告の裏付けであったり症例経験との比較に活用することにより説得力のある報告になり、医学文献が非常に重要で内科認定医取得と医学文献の関わりは大きいのである。

一般に医学文献は学会、研究会、院内勉強会などに必要とするが、内科に限らずすべての分野で専門的なライセンスの修得の為の補助的存在でもある。

2．具体的な病歴要約と文献の関わり

1) 入院後経過・考察の作成

病歴要約の【入院後経過】・【考察】を作成するがそれぞれ医療行為、最終診断、画像診断、臨床試験、投薬について細かいデータをまとめる。特に医療行為、臨床試験に関しての文献はその病歴要約の本文の構成に不可欠なものである。

2) 手術記録の作成

カルテの手術伝票の記録物から手術した術式、行為などを見て認定医のための手術記録の作成をする。文献から得た術式、行為の例などを参考に実際関わった症例と比較したりする。

3) 剖検報告書の作成

内科認定の中で外科的な分野との関わりを持つ剖検報告書は専門知識として必要に応じて文献を検索することや文献入手する事は必要となる。

参考文献

日本内科学会雑誌 病歴要約作成の手引き 94 : 2005

石丸裕康 (天理よろず相談所病院 総合診療教育部)

臨床研修プラクティス Vol.2 No.4 P60-65 (2005.03.15)